第８回　東京都感染症対策連絡会議

令和６年２月１日（木）午後４時 15 分
東京都庁第二本庁舎 31 階南側　特別会議室２１

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ただ今から、第８回東京都感染症対策連絡会議を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます、保健医療局感染症対策調整担当部長の内藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
　委員の皆様、本日は、お忙しい中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。委員のご紹介につきましては、机上に配布させていただきました出席者名簿で代えさせていただきます。
　それでは議事に先立ちまして、座長の黒沼副知事からご挨拶をいただきます。

【黒沼副知事】
　黒沼でございます。会議の冒頭に一言申し上げます。
　能登の震災からちょうど 1 カ月が過ぎました。被災地では未だ多くの方々が不安で困難な状況を強いられております。東京都からも発災直後に支援に入りまして、累計で 430 人を超える都の職員が現地でも頑張ってくれております。都でも様々な支援活動を通じて、今後の教訓にしたいと考えてございます。
　新型コロナウイルス感染症の定点医療機関当たりの患者報告数でございますが、大きく増加をしております。免疫逃避性が高いと言われる新たな変異株 JN.1 への置き換わりが進んでおり、今後の感染拡大に注意が必要でございます。本日は新型コロナの最新のモニタリング分析に加えまして、感染状況を踏まえた都の対応、来年度の方向性について報告があります。また、新型コロナ以外の感染症としまして、インフルエンザ、そして麻しん・風しんについて報告がございます。
　本日の会議にはお忙しい中、感染症医療体制戦略ボードの猪口先生、そして大曲先生、医療体制戦略監の上田先生、そして東京 iCDC 所長の賀来先生にご出席を頂いております。誠にありがとうございます。
　震災も感染症も日頃からの備えと連携が非常に重要であります。引き続き専門家の先生方のご知見をいただきながら、庁内及び関係機関とも連携を密にし、感染症対策に取り組んでまいりたいと思います。
　私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。それではまず、最新の新型コロナのモニタリング分析について、専門家の先生方からご説明をいただきます。まず感染動向について大曲先生、お願いいたします。

【大曲先生】

ありがとうございます。それではご報告をいたします。資料の 1 を使いたいと思います。

一枚おめくりください。感染の動向であります。定点医療機関当たりの患者報告数です。まずは①- 1 で「定点医療機関当たり患者報告数」でございますが、第 4 週、1 月 22 日から 28 日ですけれども、報告医療機関数が 414、患者報告数は 4,667 であります。定点医療機関当たりの患者報告数ですが、前回が定点当たり 8.33 人、今回は定点あたり 11.27 人となっております。今週先週比が約 135%となりまして、引き続き大きく増加をしております。また、免疫逃避性が高いとされる、いわゆる変異株 JN.1 への置き換わりが進んでいます。今後の感染拡大に注意が必要であります。自身の健康、そして周囲での感染のリスクを踏まえまして、場面に応じたマスクの着用、手洗い、換気などの基本的な感染防止対策とともに、体調が悪い時には外出を控えることを引き続き周知する必要がございます。

次に一枚おめくりいただきまして①-2 の「60 歳以上の定点医療機関当たり患者報告数」であります。こちらは前週が定点当たり 1.07 人、今週は定点当たり 1.39 人と増加をしています。重症化リスクが高い高齢者等の感染の拡大に注意する必要があります。東京都の感染症情報センターのデータ（2 月 1 日公表時点）によりますと、新型コロナウイルス感染症の集団発生でありますが、前週は 57 施設、今週が 106 施設と増加をしています。高齢者、そして基礎疾患を有する方は、重症化を防ぐためにもワクチンの接種が望ましいです。3 月の末までには生後 6 ヶ月以上のすべての方が無料で接種可能であります。

一枚おめくりいただきまして①-3 であります。「定点医療機関当たり年代別患者報告数」です。こちらですが、10 代以下の増加が引き続き顕著であります。また、今週は 40 代も大きく増加をしています。過去の流行を見ますと、若年層の増加から始まりまして、遅れて重症化しやすい高齢者層へ感染が広がっていますので注意が必要であります。また、若い世代、そして基礎疾患がない方であっても、咳あるいは倦怠感などの後遺症が出現するリスクがあります。これを引き続き都民に周知する必要がございます。

一枚おめくりいただきますと①-4 の「定点医療機関当たり患者報告数」の保健所の区域別であります。こちら定点医療機関当たりの患者報告数でありますが、約 9 割の区域において、前週よりも増加をしております。

次は②です。「＃7119 における発熱等相談件数」でありますが、前週が 106.9 件、今週は 98.3 件と横ばいであります。また、東京都の新型コロナ相談センターの相談件数を見ますと、前週が一日当たり平均 268 件、今週は一日当たり平均 284 件でございました。

私からは以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
ありがとうございました。続きまして医療提供体制について、猪口先生お願いいいたします。

【猪口先生】
資料の③、「救急医療の東京ルールの適用件数」について説明します。救急医療の東京ルールの適用件数は、前週の 192.7 件から今週は 150.9 件と、減少しましたが高い水準が続いております。新型コロナ以外の救急需要も高く、搬送に長時間かかる事例も発生しております。東京消防庁は、救急車の適時適切な利用を引き続き呼びかけております。東京消防庁のデータによりますと、救急出動件数は直近 7 日間平均で一日当たり 2,553 件となっております。
体調不良などで不安な場合や、受診を迷う場合は東京都新型コロナ相談センター、＃7119、小児救急相談（＃8000）が利用できることを改めて周知する必要があります。
④の入院患者数です。入院患者数は前週の 1,510 人から今週 1,599 人とほぼ横ばいとなっております。心疾患や、脳梗塞など新型コロナ以外の疾患による当期の医療需要の増加傾向と重なり、救急や入院など医療提供体制への影響が出ております。都は約 5,800 の外来対応医療機関のリストマップを都民に周知するとともに、都が備蓄する抗原定性検査キットを希望する医療機関に対して有償配布しております。東京都感染症情報センターのデータによりますと、新型コロナウイルス感染症の基幹定点医療機関あたりの入院患者数は、前週の 6.28 人から今週は 7.88 人と増加傾向が続いております。
1 月 16 日時点の入院患者数が国の定める基準において都では 1,500 人以上を超えたことから、1 月 18 日付で病床確保段階 1 に移行し、医療機関に要請して重症中等症Ⅱ患者等を対象とする確保病床約 180 床を確保いたしました。1 月 29 日時点では重症 53 人、それから中等症 237 人です。また、医療機関に対して確保病床以外でも積極的な患者受け入れを行うよう依頼するとともに、隔離目的の入院受け入れが求められていないことを再周知いたしました。今後、入院患者数が増加し、「段階２」へ移行することも想定して、行政、医療機関、東京都医師会などの関係機関が連携しながら準備をしておく必要があります。また、都は高齢者施設に対して施設向けの相談窓口、感染対策の窓口、感染対策の助言等を行う即応支援チームの派遣、施設への往診医の派遣などの取組を東京都医師会などの関係機関の協力のもと行っております。
私からは以上であります。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
ありがとうございます。続いて、変異株の状況につきまして、賀来所長お願いいいたします。

【賀来先生】
次に変異株について報告をさせていただきます。資料をご覧ください。こちらの資料はゲ

ノム解析結果の推移について、直近6週間の動きを示したものです。現在、世界で主流となっているJN.1系統は都内でも最も多く検出されており、1月8日から1月14日までの週では全体の58.3%を占めています。同系統のBA.2.86系統と合わせると68.1%となっております。一方、XBB系統は減少傾向であり、1月8日から1月14日までの週ではEG.5系統が29.2%となっており、XBB系統全体では31.9%となっております。

東京iCDCでは、引き続き、ゲノム解析により、変異株の動向を注視・監視してまいりたいと思います。

私からの報告は以上となります。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。次に今冬の感染状況に対する都の対応について雲田保健医療局長よりご説明をいたします。

【雲田保健医療局長】

私からは、今冬の感染状況に対する都の対応につきまして、ご報告をさせていただきます。資料2「今冬の感染状況に対する都の対応について」をご覧ください。賀来先生、猪口先生、大曲先生、上田先生をはじめ、東京iCDCや医療体制戦略ボードの専門家の先生方にご協力をいただきながら、感染動向や医療提供体制への負荷を的確に把握した上で必要な対策を先手先手で講じております。

まず外来医療につきましては、感染拡大時にも安定的に診療・検査が行えますよう、希望する医療機関に対して都が備蓄する検査キットを有償で配布しております。

次に入院医療につきましては、入院患者数に関する国の基準に基づきまして、先月18日に病床確保の段階を「段階0」から「段階1」に移行し、中等症Ⅱ以上の患者などを受け入れるための約180床を確保しております。併せまして、医療機関に対して確保病床の受入れ対象となる患者などを再度周知するほか、確保病床以外で積極的に患者を受け入れるよう依頼をしております。加えまして、高齢者等医療支援型施設は合計8施設・692床の体制を維持しており、引き続き介護度の高い高齢者等の受け入れを行ってまいります。

次に高齢者施設に対しましては、先月17日、施設向けの相談窓口や即応支援チームの派遣などの都の取組のほか、隔離目的の入院が求められていないことを改めて周知いたしました。また、ハイリスク層である高齢者を守るため、施設の職員に対する集中的検査を継続しております。

最後に都民への情報発信でございますが、12月22日と1月19日の知事の定例会見におきまして、場面に応じたマスクの着用、手洗い、換気などの感染防止対策やワクチン接種を都民に呼びかけております。加えてSNSにより新型コロナ相談センターの電話番号や外来対応医療機関のリスト・マップを改めて周知しております。

説明は以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございました。続いて令和６年度の新型コロナ対策につきまして、雲田保健医療局長よりご説明をいただきます。

【雲田保健医療局長】
　それでは、資料３「令和６年度の新型コロナ対策について」をご覧ください。国は昨年９月に、10 月以降の医療提供体制や公費支援に関する具体的な内容と併せて、令和６年４月から通常の医療提供体制での対応に完全移行する方針を示しております。
　都は新型コロナの５類移行後も都民の不安や医療現場の混乱を招かないよう、医療提供体制の移行を段階的に進めるという方針の下、コロナ特別対応を継続しつつ、幅広い医療機関でコロナ患者を受け入れる体制への移行を着実に促進してまいりました。その結果、発熱患者に対応する外来対応医療機関が約 5,800 機関まで増加したほか、617 病院が確保病床によらないコロナ患者の受入れを可能としております。
　こうしたことを踏まえまして、令和６年度から通常の医療提供体制での対応に完全移行することとし、コロナ特別対応は原則令和５年度末で終了といたします。なお、変異株の監視等、通常の医療提供体制での対応におきましても当面実施すべき取組につきましては、４月以降も継続してまいります。
　また、施設・設備整備の補助など医療機関に対する支援は、令和６年４月からの新たな感染症予防計画で定めます医療提供体制の確保に向け、協定締結を促進するための取組として再整理した上で実施してまいります。
　私からは以上でございます。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございました。次に新型コロナ以外の感染症の状況及び都の対応について、西塚感染症対策調整担当部長よりご説明をいたします。

【保健医療局　西塚感染症対策調整担当部長】
　それでは資料 4 を使ってインフルエンザと麻しん・風しんについてご報告いたします。最初に１ページ目であります。９月 21 日に注意報を発表したインフルエンザでございますが、１月 28 日までの第４週の定点医療機関当たり患者報告数は 18.53 人と、引き続き注意報レベルとなってございます。都内では B 型インフルエンザも増えてきており、今後動向を注視してまいります。
　次のページ、２ページ目をご覧いただきます。麻しん・風しんとなっています。初めに麻しんについてです。麻しんは空気感染も起こす、感染力が極めて強いウイルス性の疾患となっています。昨年 3 年ぶりに都内在住の麻しん患者が発生いたしました。ヨーロッパや東

南アジアでも麻しんが流行しており、輸入例の増加が今後懸念されます。症状ですが、10 日間程度の潜伏期間の後、3 日程度の風邪症状、その後 39 度の高熱と発しんが出現いたします。通常は 7 日程度で回復しますが、肺炎、脳炎など重症化する場合もございます。

次のページ、3 ページ目をご覧いただきます。次は風しんであります。症状ですが、こちらは「三日はしか」と言うように、症状は軽いながら、妊娠初期の女性が感染すると胎児が先天性風しん症候群を合併することがあり、大変重要な疾患でございます。

次に 4 ページ目をお開きください。麻しん・風しんの患者発生状況と集団免疫の状況についてでございます。左上の麻しんでありますが、こちらの縦の帯グラフは 2012 年から 2023 年までの都内の麻しん患者数、そして折れ線グラフは都民の抗体保有率を示しております。集団として必要な 95%を東京都では超えておりますが、昨年 10 人の麻しん患者が発生しております。上段右は風しんであります。こちらもほぼ 95%の抗体保有率がございます。5 年に一度程度流行が見られます。下の麻しん・風しんワクチンの定期予防接種の接種率を示します。青は第 1 期、1 歳のお子さんを対象とした定期接種になります。ピンク色は第 2 期、就学前の 1 年間のお子さんを対象とした定期接種です。右側の令和 4 年度をご覧いただきますと第 1 期が 95%を上回る 97.5%でありましたが、第 2 期は 92%と低調で、コロナ後も低調が続いているということで、必要な集団免疫が保てない恐れがございます。

5 ページ目をお開きください。定期予防接種 MR ワクチンの接種勧奨でございます。就学前のお子さんは 3 月末までに第 2 期の対象となっております。ぜひ 2 回目の接種をお願いいたします。都は市町村と医師会、関係団体と連携し、左下にあるリーフレットを配布するとともに、春休みを捉えて未接種者にワクチン接種を呼びかけてまいります。

最後 6 ページ目になります。こちらは風しんの追加対策であります。定期接種の機会を逃してしまった方、また公的接種の機会がなかった方への追加対策になります。左下でありますが、昭和 37 年から昭和 54 年生まれの男性でこれまで一度も風しんの公的接種の機会がなかった世代が対象です。2019 年から 2025 年 3 月 31 日まで国の風しん追加対策として、これらの男性を対象に、無料で抗体検査・ワクチン接種を行っております。無料の期間があと 1 年となっておりますので、対象の方は区市町村にお問い合わせいただきますようお願いいたします。その右側は東京都の事業で、区市町村と連携した妊娠を希望する女性とその同居者を対象にした風しん抗体検査・ワクチン接種であります。こちらも詳しくは、お住まいの区市町村にてお問い合わせいただければと思っております。

以上、コロナ以外の感染症についてご報告いたしました。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました、議事は以上となります。

それでは本日お越しいただいている専門家の先生方から全体を通じてコメントをいただきたく存じます。まず猪口先生、いかがでしょうか。

【猪口先生】
　どうもありがとうございます。今、西塚部長からお話があった予防接種等は、医師会を挙げて一生懸命やっておりますので、是非ご利用ください。それから、コロナではなく、今の通常医療の状況ですが、過去３年間感染がずっとあった中で、最も通常医療の患者さんが増えているという印象を持ちます。去年 2023 年の下半期ぐらいから救急の出動件数も非常に増えておりまして、去年の出動件数は過去の最高を記録したと聞いておりますが、その動向と全く同じで、今現在も通常医療が非常に増えておりまして、急性期病院は今かなり混雑している状況です。その中で、コロナ患者は今日も案内がありましたように、隔離入院は必ずしも必要とされていないということになっておりますので、軽症の場合、どうしても入院させたいという思いがご家族それからご本人におありであっても、ベッドがなかなか用意できないということも非常に多くあると思います。重症化しやすいお年を召した方たちは、是非コロナからも守っていただきたいと思いますし、それから、急激な温度の変化により通常医療の心疾患や脳卒中も起こしやすくなりますので、是非今の時期はお体に気をつけてお過ごしいただければと思います。
　以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございます。続いて大曲先生、いかがでしょうか。

【大曲先生】
　コロナについて、今日私の病院でもどういう患者さんがいらっしゃるかを改めて見てきたところ、入院されている方の中には、思った以上に重い肺炎の方が多く、驚きました。今でも肺が真っ白になるような肺炎の患者さんはいらっしゃいます。ですので、コロナは終わった、重症になることはなくなったと言われることをよく耳にしますけれども、現実にはそうではないんだということが非常によくわかりました。実際一人一人の様子を見ると、高齢の方が多いのは事実ですが、やはりワクチンも打っていらっしゃらない方もかなりおられ、そういった方々が中等症・重症で来られるということが非常に目立ちます。ということで、重症化の予防という観点で、是非ワクチンを受けていただければと思っております。
　私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】
　ありがとうございました。続いて上田先生、いかがでしょうか。

【上田先生】
　ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の状況ですが、先ほどの大曲先生からのご報告のように、患者数は前週から大きく増加し、定点医療機関あたり 11.27 人となって

おります。また、インフルエンザについても、定点医療機関あたり 18.53 人と引き続き注意報レベルの感染が続いています。加えて、先ほど猪口先生からのご報告にもありましたように、寒冷に伴う脳血管障害や心疾患などの増加によって医療需要も高まり、医療提供体制への負荷がさらに増しています。ついては、新型コロナ患者のさらに幅広い医療機関での受入れをさらにお願いするとともに、新型コロナ患者の隔離目的入院が求められていないことへの医療機関、高齢者施設、そして都民の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

さらに都民の皆様へのお願いです。ご自身や周りの方の健康を守ることに加えて、さらなる感染拡大を防ぎ、医療提供体制への負荷を減らすためにも、混雑している車内を始めとする場面に応じたマスク着用、換気、手洗いなど基本的な感染防止対策を心がけてください。また、体調が悪い時は無理をせず、外出等について、慎重な判断をお願いいたします。

都の新型コロナ相談センターは毎日 24 時間対応しておりますから、発熱などの症状があって不安な場合、医療機関を受診する前に是非ご相談ください。新型コロナへの特別対応は原則今年度末で終了し、4 月からは通常の医療提供体制での対応に移行いたします。移行後も都民の生命と健康を支えるため、都立病院は行政的医療を安定的に提供し、引き続き救急患者や新型コロナ患者の診療を積極的に行ってまいります。都民の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。最後に賀来先生、お願いいたします。

【賀来先生】

本日は新型コロナウイルスについてモニタリングの状況、感染状況を踏まえたこの冬の都の対応や、新型コロナ以外の感染症として、インフルエンザと麻しん・風しんについて報告をいただきました。

新型コロナのモニタリング状況ですが、先ほどご報告がありましたように、定点医療機関当たりの患者報告数は前週の 8.33 人から 11.27 人と引き続き大きく増加したとのことでした。この原因としては、免疫逃避性が高いとされる変異株 JN.1 への置き換わりが世界の各国で進んでいますが、東京でも JN.1 への置き換わりが進んでおり、今後の感染拡大に注意が必要と考えられます。先ほど大曲先生が言われましたように、やはりコロナでも重症化することがあり、ワクチン接種と基本的な感染予防対策をしっかり行っていくことが重要かと思います。インフルエンザについても、コロナと感染予防の対策は同じであります。都民の皆様におかれましては、場面に応じたマスクの着用や手洗い、室内の換気など、今一度、基本的な感染対策に取り組んでいただきたいと思います。

また、先ほど報告がございました麻しん・風しんについてですが、麻しん・風しん混合ワ

クチンの第２期の接種率が低調との報告がありました。ワクチンにより社会全体を守ることが大切であります。定期接種また追加接種の機会の活用を是非ご検討いただければと思います。

東京 iCDC は、これからも東京都が様々な感染症への対策を進めるにあたって、専門家の立場から必要な分析や助言を行い、都の取組を支えてまいりたいと思います。

私からは以上であります。

【保健医療局　内藤感染症対策調整担当部長】

ありがとうございました。最後にご出席の皆様からご発言やご質問はございますでしょうか。

特にないようですので、以上をもちまして第 8 回東京都感染症対策連絡会議を閉会とさせていただきます。

本日はご出席誠にありがとうございました。